

特定非営利活動法人 チャイルド・ファンド・ジャパン

2007年度年次報告書

チャイルド・ファンド・ジャパンは、
1975年より、アジアを中心に貧困の中で
暮らす子どもの健やかな成長、家族と地域の
自立を目指した活動をしています

理事長ご挨拶

今こそ、子どもに開かれた未来を！

皆様のお祈りとご支援に支えられて、チャイルド・ファンド・ジャパンは、2007年度も着実に国際協力の事業を実施することができました。特に2006年11月から開始したスリランカでのスポンサーシップ・プログラムも二年目を迎え、多くの方々にスポンサーとして加わっていただいております。皆様の暖かい愛のご協力に心からお礼を申し上げます。

洞爺湖サミット後も、原油高騰に歯止めが掛からず、地球温暖化の影響は顕著になっています。

皆様からご支援いただく子どもたちが暮らすフィリピンやスリランカでも主食の米の値段が高騰して、人びとの生活がより厳しくなっていますし、ネパールでは品薄となったガソリンや軽油を手に入れるためスタンドに長蛇の列が出来ています。穀物価格と原油価格の上昇は、確実に貧しい人びとの生活に深刻な影響を及ぼすと共に、日本に暮らす私たちが生活の中で大きな影響を受けています。

地球のすべての人が、「宇宙船地球号」に乗り合わせていること、世界の運命を共有しているという認識を、私たちは、今、強く持たなければいけないと思います。

この世界の流れの中で、私たちは、チャイルド・ファンド・ジャパンのビジョンである「すべての子どもに開かれた未来を約束する国際社会の形成」という意義を確認しつつ、今こそ、このビジョンの実現に向かって努力する必要を痛感しています。

厳しい経済状況の中ではありますが、今後とも引き続き皆様のお祈りとご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。



特定非営利活動法人
チャイルド・ファンド・ジャパン
理事長 深町 正信 (青山学院名誉院長)

ChildFund
Japan

Vision Mission

チャイルド・ファンド・ジャパンは
ここに掲げるビジョン(目標)、
ミッション(使命)に
基づいて活動します。

ビジョン(目標) すべての子どもに開かれた未来を約束する国際社会の形成

愛のパトンタッチ

チャイルド・ファンド・ジャパンは、第二次世界大戦後、海外からの支援を通して、日本の戦災孤児の成長を守ることから活動を始めました。時代が変わり、支援の受け手から担い手へと立場が変わっても、そこに一人ひとりの子どもが希望を持って生きることのできる社会を目指す姿勢は変わりません。

ミッション(使命) 生かし生かされる国際協力を通じて子どもの権利を守る

子どもの笑顔のために

チャイルド・ファンド・ジャパンは、ビジョンを達成するために、支援を通じてつながるすべての人々が、様々な違いを超えて、お互いが人生に意味を見出し、「生きていてよかった」と思える国際協力を実践することを通して、子どもの権利を最優先に位置づけた活動を展開します。

目次

理事長ご挨拶 理事長 深町 正信	2
チャイルド・ファンド・ジャパン事業概要 支援者数と支援チャイルド数の3ヵ年推移	3
国内の活動	4-5
スポンサーシップ・プログラム	6-9
支援プロジェクト-フィリピン	10
支援プロジェクト-ネパール	11-13
緊急・復興支援事業	14-15
2007年度会計報告	16-18
組織図・役員名簿	19
チャイルド・ファンド・アライアンスについて	20

チャイルド・ファンド・ジャパン事業概要

1. 地域開発支援事業

●スポンサーシップ・プログラム(6-9p)

スポンサーとチャイルドとの一対一のつながりを通して、子どもの健全な成長と地域の自立を目指した包括的な支援を行う事業です。

2007年度は、フィリピンで25カ所の協力センター、スリランカで2カ所の協力センターに対して支援を行いました。

●支援プロジェクト(10-13p)

貧困に起因する様々な問題の中で、特定の開発課題に応える支援事業です。2007年度はフィリピンで1件、ネパールで3件の事業を継続しました。

2. 緊急・復興支援事業(14-15p)

台風や地震などの自然災害の被災者や、地域紛争による避難民を支援する事業です。

2007年度は2006年度から実施している緊急・復興支援として、インドネシアとスリランカの津波被災地、またインドネシア中部ジャワ島の地震被災地で支援事業を継続しました。

3. 広報・啓発・提言事業(4-5p)

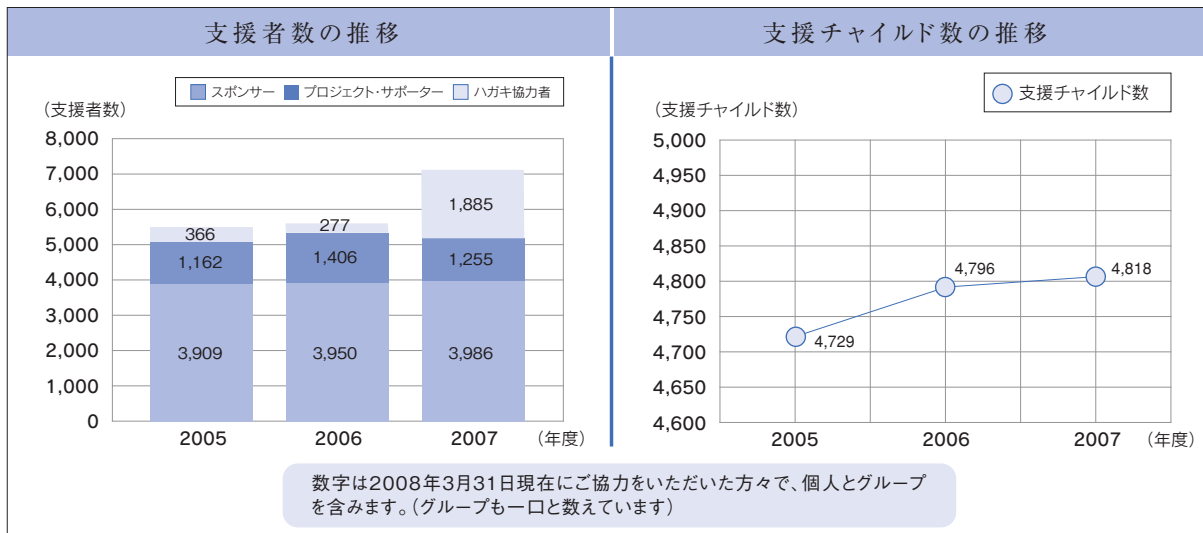
国内でチャイルド・ファンド・ジャパンの活動を広め、理解を深めていただくための事業です。報告会の実施やイベントへの出展を行いました。

また、国際協力NGOセンター(JANIC)等のネットワーク組織に参加し、国内のNGOとの連携を図りました。



支援者と支援チャイルド数の3カ年推移

2007年度は7,126名の方がスポンサー、プロジェクト・サポーター、ハガキ協力者として活動を支援してくださいました。スポンサー新規入会者数385名に対して退会者数が361名と、減少傾向にあったスポンサー数がやや増加に向かい、昨年度を上回ることができました。これにともない、支援チャイルド数も増加することができました。一方、プロジェクト・サポーター数は、151名の減少となり、次年度に向けての課題が残りました。今後とも皆様の変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。



国内の活動

支援者の方々のご協力

■書き損じハガキ・未使用切手

2007年度は記事が7紙の新聞に掲載され、昨年度を大幅に上回る全国2,862件の個人・団体の皆様にご協力をいただきました。未使用切手とあわせると、6,151,360円の支援金となりました。(書き損じハガキ、未使用切手は年間をととして集めています。どうぞご協力をお願いいたします。)

■第3回スマイリング・パートナーズ チャリティゴルフ大会

2007年12月、スポンサーで読売巨人軍コーチの篠塚和典さんの主催でチャリティゴルフ大会が開かれ、235名の方が参加、20名のチャイルドの支援を継続してくださいました。

■チャリティ・イベント

藤沢北教会(神奈川)、江田明子さん(埼玉)が、チャリティ・コンサートを開催してくださいました。

■ボランティア活動

2007年度はボランティア制度が4年目に入り、113名の方が登録して、チャイルドの手紙や「チャイルドの成長記録」の翻訳、事務局での「書き損じハガキ」を数える作業など多岐にわたって活動を支援してくださいました。



事務所での活動の様子

企業・団体のご協力

スポンサーシップ・プログラムへのご協力

■企業との合同企画

2007年8月、企業5社(キーコーヒー株式会社、キッコーマン株式会社、株式会社ジャパンエナジー、日本たばこ産業株式会社、株式会社日立ハイテクノロジーズ)との協働で第6回「チャリティ古本市」を開催し、5名のチャイルドの支援となりました。4,000冊以上の古本がチャイルド・ファンド・ジャパンの支援者の皆様から送られました。ご協力ありがとうございました。

■埼玉県的生活協同組合ドゥコープ組合員の方々から

生活協同組合ドゥコープの組合員の皆様が、「Do!平和募金」とおして6名のチャイルドを支援してくださいました。

支援プロジェクトへのご協力

■OKIグループの社員募金「OKI愛の100円募金」、三井住友銀行ボランティア基金、富士ゼロックス株式会社及び端数倶楽部よりネパールの栄養改善事業へのご協力をいただきました。

その他のご協力

■クリック募金 株式会社カカコム「価格.COMクリック募金」によるご協力

1回のクリックが1円の寄付になります。2007年度は、1,826,113円のご寄附をいただき、支援プロジェクトで活用しました。チャイルド・ファンド・ジャパンのホームページのトップページ左にバナーがあり、クリックできます。皆様の1日1円のご寄附が集まり、大きなご支援となりました。引き続きクリックをお願いするとともに、お知り合い、学校などにご紹介ください。



■ノースウエスト航空会社 エアケアー・チャリティ・プログラムによるご支援。

マイルのご寄付により、ノースウエスト航空や提携他社の航空券に換え、スタッフが支援活動のため出張する際に用いられます。

☎ 0120-747-050もしくは下記ホームページにてマイルの寄附を受け付けています。

<http://www.nwa.com/jp/jp/corpinfo/aircares/>

■イーココロのポイントを国際協力へ

ユナイテッドピープル株式会社のご協力で、イーココロを通して買い物をしていただいた際のポイントを、チャイルド・ファンド・ジャパンへ寄附することができます。詳細はイーココロホームページをご覧ください。

<http://www.ekokoro.jp/ngo/childfund/>

「フィリピン訪問の旅2008」を実施

7年ぶり、待望の実施となった“フィリピン訪問の旅”。2月8日～13日(5泊6日)の日程で、全国から集まった17名の参加者とともに、フィリピンのパナイ島、ギマラス島、ネグロス島の3カ所の支援センターを訪問しました。チャイルドや地域の人々との交流、プログラムの見学をとおして、チャイルド・ファンド・ジャパンの活動について理解を深めていただきました。



参加者の皆さんと訪問先の人々(センター24にて)

参加者の感想：藤吉香里さん(福岡県)

センターでは多くの子どもたちを支援しているのに一人ひとりに細やかに目が行き届いていることに本当に驚いた。機関紙などを読んでいても何となくいいことばかり書いてあるのかなと思っていたが、実際に行ってみて、こういうことなのかとセンターの支援の成果を実感した。いつも訪問の旅のチラシは見ていたが、自分の支援するチャイルドに会えるのは初めてだったので参加し、会えてとても良かった。子どもたちの笑顔が印象的だった。



藤吉さんとチャイルドのレイ

その他の広報活動

■国際理解教育活動・報告会

- *学校、教会、グループの集まりに事務局スタッフが伺い、活動の説明やご質問にお答えする報告会を計32回行ないました。
- *小学校3校、中学校5校、高校2校、大学3校が国際協力やボランティア活動を学ぶために東京事務所を訪れました。
- *ネパールに赴任している吉田希職員が一時帰国して2008年3月に札幌と東京で、「ネパール栄養事業」の報告会を開催しました。



都立六本木高校の皆さんが授業の一環として、描いてくれたポスター

■イベントへの出展

チャイルド・ファンド・ジャパンをより多くの方に知っていただくために、地域でのイベントや同窓祭などに出席しました。

- ・東京女子大学園遊会(4月)
- ・ハッピー・エンジェルズ楽団チャリティ・コンサート(4月)
- ・唐津チャリティ・フェスティバル(5月)
- ・青山学院初等部ファミリーフェア(5月)
- ・青山学院大学同窓祭(9月)
- ・三鷹国際交流フェスティバル(10月)
- ・グローバルフェスタ2007(10月)
- ・としまふれあいバザール(11月)
- ・power of music 絢香(2008年2月)
- ・日本たばこ産業株式会社アフタヌーンコンサート(通年)

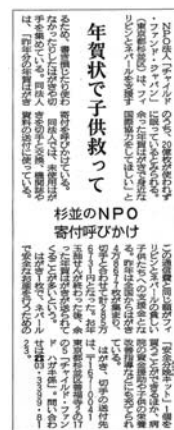


立正校成会唐津教会主催のチャリティ・フェスティバルにて、活動報告をするスタッフ(左端)

■マスコミによる紹介

新聞、ラジオ、テレビ等のメディアをとおして書き損じハガキ回収運動や報告会開催などの活動が紹介されました。2008年2月5日に『笑福亭昇瓶のほっかほくらジオ』(京都放送:KBS京都)で書き損じハガキ回収について生放送中に電話インタビューを受けました。

産経新聞 2008年1月29日



■他のNGOとの連携

国内のNGO間のネットワーク推進を図る「国際協力NGOセンター(JANIC)」の理事を、事務局長の小林毅が務めています。また、「教育協力NGOネットワーク(JNNE)」 「ほっとけない世界の貧しさキャンペーン」「2008年G8サミットNGOフォーラム」に参加しました。

スポンサーシップ・プログラム

スポンサーシップ・プログラムは、スポンサーとチャイルドとの一対一のつながりを通して、子どもの健全な成長と地域の自立を目指した包括的な支援を行う事業です。このプログラムは、子どもの成長、家族の生活改善、住民主体の組織作りなどを支援します。貧困の中で暮らす子どもが元気に成長し、家族や地域の人々が自分たちの力で問題を解決する力を身につけて行きます。2007年度はフィリピン、スリランカとともに支援を継続しました。

スポンサーシップ・プログラムの目指す2つのゴール

ゴール1 チャイルドの健全な成長

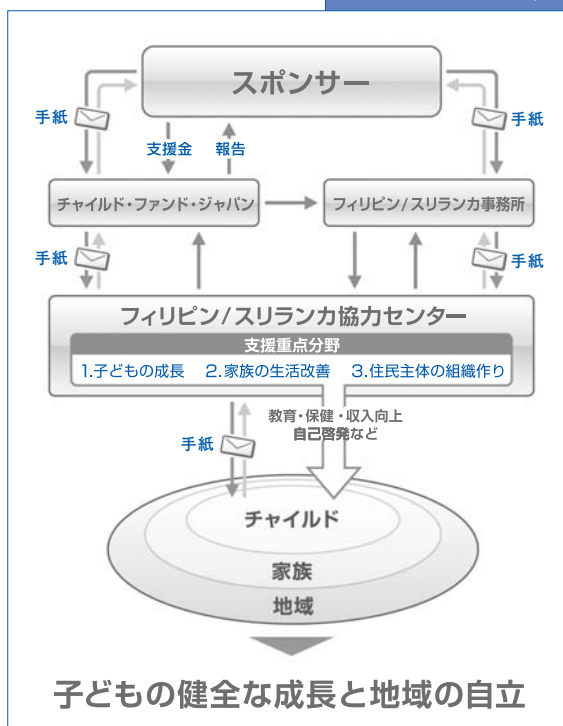
将来を担う子どもたちへの教育、健康に生活するために必要な保健・医療等、一人ひとりの必要に応じた支援をしています。チャイルドには担当のスタッフがつき、家庭や学校訪問をとおして日々の成長を見守っています。

チャイルド・ファンド・ジャパンの協力センターでは、演劇や絵画を活動に取り入れて、個性を伸ばしながら内面を育てることができるよう取り組んでいます。

ゴール2 地域の自立

チャイルドの家族や地域の人々へ、職業訓練や住民組織の立ち上げ、事業資金の融資等の支援をしています。人々が協力して自らの問題を解決していくことができるよう、中・長期的視野にたったプログラムを実施しています。支援を開始した1975年から2007年度末までに、フィリピン全土で計28カ所の協力センターが自立を達成しました。

スポンサーシップのしくみ



2007年度支援チャイルドデータ

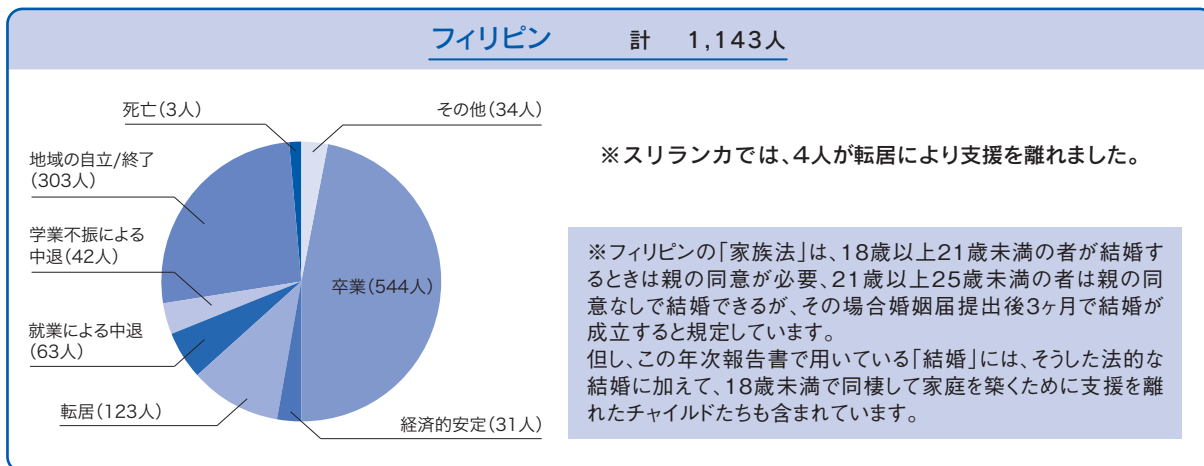
■支援チャイルド数

フィリピン 4432人

スリランカ 386人

計 4,818人

■チャイルド・ファンド・ジャパンの支援を離れたチャイルド(2007年度)



《フィリピン・スリランカ》



2007年度 チャイルド・ファンド・ジャパン協力センター 一覧

フィリピン協力センター				
センター番号	協力センター名	協力センターの運営団体	支援開始日	チャイルド定員数※
10	サンタ・ラファエラ・マリア・ファミリー・サービス・センター Santa Rafaela Maria Family Service Center	聖心侍女修道会	1983.08.01	300名
19	インファンタ・コミュニティ・デベロップメント・センター Infanta Community Development Center	インファンタ・インテグレート・コミュニティ・デベロップメント・アシスタンス(NGO)	1988.09.01	280名
21	ブカス・パラッド・コミュニティ・センター Bukas Palad Community Center	アラミノス教区	1989.08.01	343名
24	マザー・リタ・バルセロ・コミュニティ・センター Mother Rita Barcelo Community Center	フィリピン・アウグスチノ宣教会	1991.12.01	150名
26	イナ・ナン・ブハイ・コミュニティ・センター Ina ng Buhay Community Center	チャイルド・ファンド・ジャパン フィリピン事務所	1992.12.01	147名
27	パヌルヤン・センター Panuluyan Center	ラサレット・パナマ財団	1995.02.01	300名
28	カタグワン・センター Kataguan Center	セントメリー・マグダレン小教区	1995.02.01	170名
30	コミュニティ・パートナーシップ・フォー・インテグレイテッド・チャイルド・デベロップメント・センター Community Partnership for Integrated Child Development Center	チャイルド・ファンド・ジャパン フィリピン事務所	1996.01.03	350名
32※	セントフランシス・オブ・アシジ・センター St. Francis of Assisi Center	チャイルド・ファンド・ジャパン フィリピン事務所	1996.02.01	250名
33	スピード・フォー・スリガオ・センター SPEED for Surigao Center	ダバオ医科大学財団 プライマリーヘルスケア研修所	1996.03.18	328名
34	NDBRCFI・ラネスティン・デベロップメント・センター NDBRCFI LANESTIN Development Center	ノートルダム・ビジネス・リソース・センター財団	1996.03.18	300名
35	セクレッド・ハート・オブ・ジーザス・ファミリー・センター Sacred Heart of Jesus Family Center	カノッサ修道会	1996.08.01	300名
39※	トゥルナン・ゾーン・オブ・ピース・センター Tulunan Zone of Peace Center	キダバワン教区	1997.02.15	100名
40	パトング・トライバル・コミュニティ・デベロップメント・センター Patong Tribal Community Development Center	カサレス・ソーシャル・アクション財団	1997.11.01	150名
41	インマヌエル・ルーラル・デベロップメント・センター Immanuel Rural Development Center	ハニワイ・カルバリオ・コミュニティ・センター(NGO)	1998.11.01	300名
42	マザー・イグナシア・ナショナル・ソーシャル・アクション・センター Mother Ignacia National Social Action Center	レリジャス・オブ・バージン・メアリー修道会	1999.01.01	150名
43	センター・フォー・コミュニティ・ヘルプ・インテグレイテッド・ライフロング・デベロップメント Center for Community Help Integrated Lifelong Development	ノートルダム・マーベル大学 シャンパニア・コミュニティ・カレッジ	1999.08.01	150名
44	セント・フランシス・センター・インテグレイテッド・エリア・デベロップメント・フォー・オーロラ Saint Francis Center-Integrated Area Development for Aurora	オーロラ州総合地域開発協会(NGO)	2001.08.01	250名
45	オールド・サンタ・メサ・センター Old Sta. Mesa Center	アテネオ大学付属機関 センター・フォー・コミュニティ・サービス	2001.11.15	200名
46	アワ・レイディ・オブ・ナザレス・チルドレン・センター Our Lady of Nazareth Children Center	メアリー財団	2002.05.15	150名
47	タブク・ルミアワン・センター TABUK LUMIN-AWA-AN Center	タブク代牧区	2003.01.01	100名
48	ペドロ・カルソッド・ピース・センター Pedro Calungsod P.E.A.C.E. Center	セイビア大学	2003.01.01	150名
49	アルダースゲート・クリスチャン・チャイルド・センター Aldersgate Christian Child Center	アルダースゲート大学	2003.06.01	150名
50	チルドレンズ・エドゥケーション・アンド・ウェルフェア・アシスタンス Children's Education and Welfare Assistance	ノートルダム・キダバワン大学	2004.06.01	100名
51	リホック・バタ・デベロップメント・センター Lihok Bata Development Center	ミンダナオ・リソース・インスティテュート・フォー・コミュニティ・デベロップメント(NGO)	2006.06.01	100名

※チャイルド定員数には、スポンサーの紹介を待っているチャイルドの数も含まれています。
※センター32,39は2007年5月31日に終了しました。

スリランカ協力センター				
センター番号	協力センター名	協力センターの運営団体	支援開始日	チャイルド定員数※
2747	ダスナ・チャイルド・デベロップメント・プログラム Dasuna Child Development Program	CCFスリランカ事務所	1994.09.08 (チャイルド・ファンド・ジャパン として2006.11.20~)	800名
4224	ムンダラマ・チャイルド・デベロップメント・プロジェクト Mundalama Child Development Project	CCFスリランカ事務所	2006.10.31 (チャイルド・ファンド・ジャパン として2007.01.25~)	500名

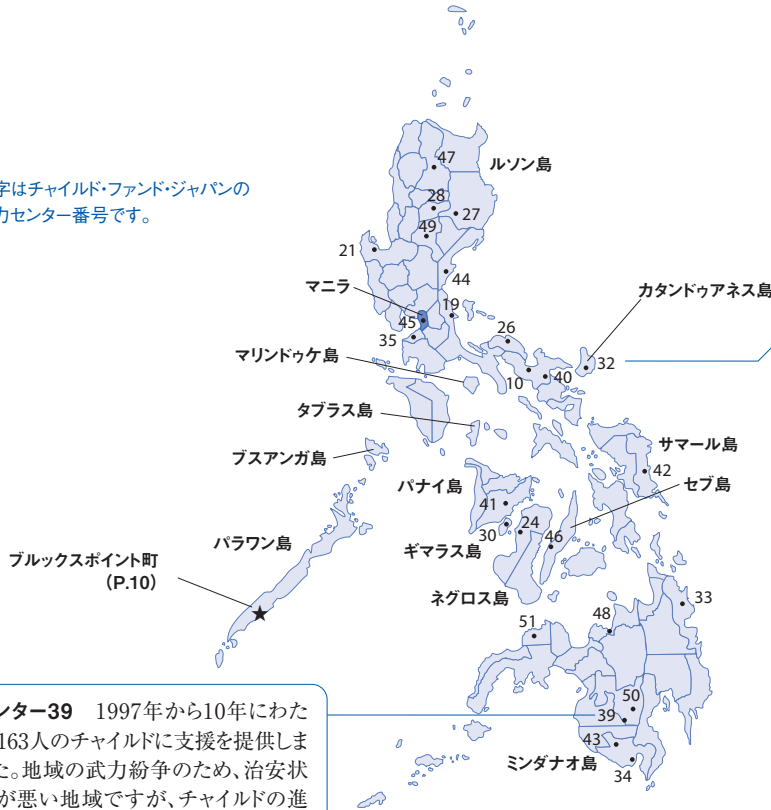
※スリランカでのプロジェクトはCCF (Christian Children's Fund)との協力で行われています。
CCFはアメリカの国際協力団体で1985年からスリランカで活動しており、チャイルド・ファンド・ジャパン以外にチャイルド・ファンド・アライアンス加盟国(*裏表紙参照)が支援をしています。

スポンサーシップ・プログラム

《フィリピン since 1975》

フィリピンでは25カ所の協力センターで、貧困世帯に属する4,432人の子どもたちや家族の生活改善に協力しました。2007年5月31日をもって2つの協力センター(32,39)が自立をし、支援を終了しました。また、2つのセンター(21,27)の活動地域の一部も自立を達成しました。(センターの活動は他の地域で継続しています)

※数字はチャイルド・ファンド・ジャパンの協力センター番号です。



センター32 1996年から11年にわたり、471人のチャイルドに支援を提供しました。チャイルド・ファンド・ジャパンの支援が終了した後も、住民によって設立された協同組合が生計技能訓練や各種プログラム、将来的には教育支援の提供も行う予定です。



パン作りの職業訓練を受けるハイスクール生(センター32)



リフレクソロジーと指圧の職業訓練を受けるチャイルドの家族(センター32)

センター39 1997年から10年にわたり、163人のチャイルドに支援を提供しました。地域の武力紛争のため、治安状況が悪い地域ですが、チャイルドの進級率は90%以上を維持することができました。また、センターのプログラムによって、チャイルドの家族も地域の自治活動に積極的に取り組むようになりました。平和構築に関する研修が多く行われましたが、今後この成果が現れることを期待しています。

チャイルドのお手紙から

ジョセル(左/センター35)

私を支えてくださったT様に感謝したくてお便りしています。T様がいなかったら今の自分はなかったと思います。私は無事ハイスクールを卒業して、新しい人生の一步を踏み出しました。今まで様々な苦勞がありました。ご支援やすばらしい助言が支えになりました。本当に今までありがとうございました。

今後私は専門学校に入学しようと思っています。将来への強い意志があることを証明したいのです。まずは家族の助けになりたいと思っています。ご親切は忘れません。



卒業式で父親とともに

住民組織リーダーの声

ロレリーさん(右端/センター41)

700人のメンバーを抱える協同組合のマネージャーとして、辛いことや様々な問題にもぶつかります。でも支援されている子どもたちの家族、地域の人たちが貯蓄を増やしたり、収入を向上させて生活が楽になるように、喜んで苦勞を受け入れたいと思っています。『正直さ』というのが、私のポリシーです。そしてこの協同組合が自分たちの力で活動を継続できる組織にしていきたい。それが日本の皆さんの気持ちに伝えることだと思うからです。

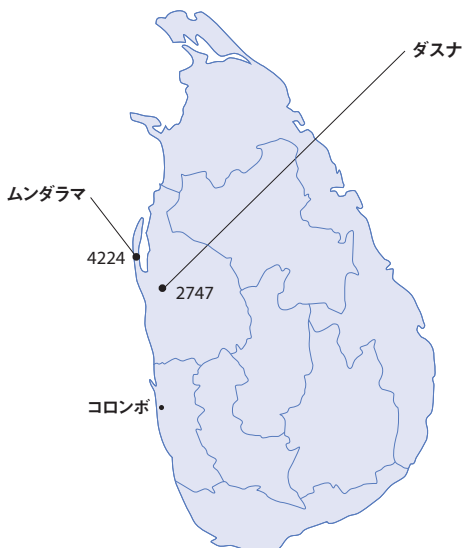


ロレリーさん(写真右)

《スリランカ since 2006》

スリランカはスポンサーシップ・プログラムが開始してから1年が経過しました。現地の協力プロジェクトは2カ所で、チャイルドの数は386人でした。チャイルドたちの成長と地域改善を目的としてプログラムが実施されました。ダスナ地域では、農業、家畜の肥育、レンガなどの焼成、ムンダラマでは漁業が主な収入源です。地域の問題として、低収入による子どもたちの低体重、公教育の質の低さ、両親の出稼ぎによる家庭崩壊などがあります。問題解決のために健康・衛生・栄養、基礎教育、乳幼児のケアと教育、収入向上などのプログラムを実施しています。

ムンダラマの、多くの世帯は零細漁民です。土地は砂地になっており、井戸水は塩分を含み、生活をより厳しくしています。家は杭の間を泥でふさいだような壁で、屋根はココナツの葉で覆われています。トイレや安全な水を確保できる世帯は殆どありません。子どもたちは栄養のある食事を摂ることができません。教育プログラムの他に、トイレ建設や深井戸の建設が地域の保健プログラムによって進められています。



ダスナでは、稲作と家畜の肥育が主な収入です。干ばつで農作ができない時もあります。ココナツ、カシューナツを育てている世帯もあります。約5割の世帯が雨風に弱い耐久性の低い家に暮らしています。安全な水を確保できない世帯は5割で、3割の世帯にはトイレがありません。教育、保健・衛生、職業訓練、収入向上、地域の人々のための医療費補助、図書室などがプログラムとして実施されています。

※数字はチャイルド・ファンド・ジャパンの協力センター番号です。



乳幼児のケアと教育プログラム(ムンダラマ地域) ミルクの補食。



乳幼児の母親のための栄養講習(ダスナ地域) 芋を練ったドーナツを作る。



補習クラス(ムンダラマ地域)

～スリランカの「チャイルドの成長記録」～

スリランカのスポンサーシップ・プログラムが開始してから1年が経過し、チャイルドの成長記録が初めて届きました。過去1年間にチャイルドが参加したプログラムや地域の改善のためのプログラムなどを、チャイルドの写真、描いた絵など、個人の成長とともにご報告しました。



「成長記録」とともに送られた、チャイルドが描いた絵と写真

協力団体： AMP-IPM (Augustinian Missionaries of the Philippines Indigenous Peoples Mission)

*カトリック修道会内の福祉部門。少数民族パラワン族の文化継承、保健・栄養改善・教育活動を行う

協力期間： 2003年6月1日から2006年5月31日(第1期)

2006年6月1日から2009年5月31日(第2期)

支援対象： パラワン州ブルックスポイント町に住むパラワン族300世帯。このうち水供給事業の対象は、バヨグ地区、ラアング地区の160世帯と小学校1校

報告期間： 2006年6月1日～2007年5月31日

支援規模： 1,099,996.80ペソ(約2,617,992円;使用レート 1ペソ=2.38円)

*為替レートが送金時期によって異なるため、日本の会計報告と必ずしも一致しません。

事業の背景と目的

少数民族パラワン族は、パラワン島外からの移住者に土地を奪われ、行政サービスが十分に行き届かない山間部に追われ、マラリア等の感染症、栄養不良、慢性的な水不足等に苦しめられてきました。

本プロジェクトは、第1期では、パラワン族の人々の生活改善をめざして、栄養改善、マラリアを中心とした感染症の早期発見等のための保健ボランティアの育成、伝統文化の保全などの分野で成果を挙げてきました(2005年度年次報告参照)。

そして、第1期終了時には、村に安全な水を運ぶ給水設備が完成し、その維持管理体制を構築し、住民による保健・教育・生計活動や食料自給体制の強化を図るために、事業を第2期として3ヵ年延長しています。

2007年度の総括

本事業第2期の初年度として、事業目的に沿って、以下の成果を達成しました。

1 保健ボランティアの参加による定期医療・歯科検診、補食サービスや栄養指導が引き続き実施され、マラリアと診断された6歳以下の子ども4人を含む33人が地域病院に紹介され、治療を受けることができました。

2 伝統文化を学ぶワークショップは6回開催され、141人の子ども(3歳～6歳)が参加しました。また、研修を受けた住民の中から伝統文化指導者3名が新たに指導者として着任しました。この他に、地域ごとに曜日を決めて地域の年配者が子どもたちに民族の伝統や習慣を伝えるワークショップの開催も定着しました。

3 マラリア対策として、使用法の研修とともに、蚊帳が一世帯一張配布され、住民は、今後の蚊帳の調達資金にあてるために代金を一部負担しました。

4 6ヵ所でレベル別に開催される成人識字教室では、平均進級率77.5%となり、住民の中から育成された教員ボランティアが使用する共通の指導要領が完成しました。

5 13人の教員ボランティア、14人の保健ボランティアが研修を受講しました。

6 マラリア早期発見センター分室1ヵ所が完成しました。

7 小規模ビジネス研修の指導ボランティアマニュアルが完成しました。



補食プログラムの様子



教育プログラムの様子

研修を受けて保健ボランティアとなったパシアノさん

私は字が読めなかったので、識字の勉強をしながら保健研修を受けました。今では、他の保健ボランティアにもマラリア早期発見テストやマラリア予防の方法を指導できるまでになりました。

一世帯に一張提供された蚊帳の
使い方を指導するパシアノさん



協力団体： HDCS (Human Development and Community Services)
 ※ネパールのキリスト教系NGOで、知的障害児の施設運営や病院運営支援を実施する。

協力期間： 1996年7月中旬～2011年7月中旬 (ネパール暦2053年から2067年)

支援対象： オカルドウンガ郡 (人口約17万人、全56カ村) と近隣5郡の住民

報告期間： 2006年7月中旬～2007年7月中旬 (ネパール暦2063年)

支援規模： 6,984,093ルピー (約10,965,026円: 使用レート 1ルピー=1.57円)
 ※為替レートが送金時期によって異なるため、日本の会計報告と必ずしも一致しません。

事業の背景と目的

ネパール東部に位置する山岳地域における病院事業と地域保健事業 (保健行政サービスの機能強化とプライマリ・ヘルス分野での住民の能力強化) の同時推進を支援することにより、地域住民の総合的な健康状態の向上を目指します。

2007年度の総括

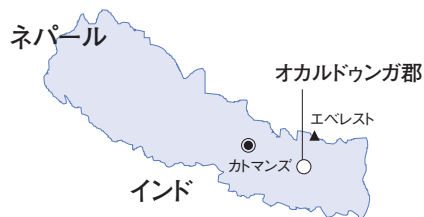
1 病院事業

開業後初めて患者の年間来院数が2万人を超え、診療費収益は収入の59%を占めるにいたりました。年間入院患者数は前年度比21%の増加で約2,000人となり、5歳未満児のそれは57%も増加しました。

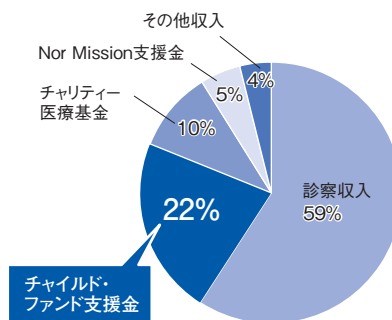
これは、新たに開始した「子ども無料検診」のためと思われます。資機材では、血算測定器、顕微鏡、マイクロピペットなどを支援しました。職員1名に対し半年間の超音波診断装置研修を支援し、この装置による検査件数は、昨年度比で4倍強となりました。



病院で診察を待つ村人



オカルドウンガ病院事業
病院事業総収入 17,048,822ルピー



2 地域保健事業

南部4カ村でフェーズアウトのための最終活動を行い、新たに西部の1カ村で活動を開始しました。保健所内に設置した簡易薬局では、医薬品の常時確保と基金の有効活用に努めました。新たに組織化された10の母親グループが、メンバーの女性地域保健ボランティアから保健指導を受け、昨年よりも頻繁に保健所を利用するようになりました。75名の子どもが9ヵ月間の子ども保健教室に参加し、予防接種、応急処置、保健衛生などについて学び、自分の家に新たにトイレの設置を求める子どもも出てきました。



シンガデビ村の母親グループのメンバー

「子ども保健教室」に参加したシンガデビ村のラミラちゃん 小学校6年生女子 (写真左)

私たちは、毎週土曜日に2時間ずつ近所のお姉さんが教えてくれる「子ども保健教室」の生徒です。そこで、トイレを作って用を足すこと、トイレや食事の前に必ず石けんで手を洗うこと、爪は短く切っておくこと、朝晩歯をみがくこと、下痢になったら経口補水塩を飲むことなどを教わりました。習ったことを家に帰ってきて、家族や近所の友達に話しました。新しいことを友だちといっしょに学べて楽しいです。



協力団体：NPCS(Nutrition Promotion Consultancy Service)

*ネパールのNGO。社会的弱者や貧困層の栄養改善をはかるため、地域住民への保健教育やNGOスタッフ、行政官への栄養研修を実施する。

協力期間：2000年7月中旬～2008年7月中旬(ネパール暦2057年から2064年)

支援対象：(全国レベル)NGO等開発団体や行政機関の栄養・保健事業担当者や学校関係者
(地域レベル)ダーディン郡の4ヵ村およびマクワンプル郡の4ヵ村に居住する約8,200人の5歳未満児と約15,000人の母親

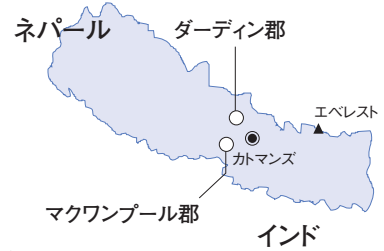
報告期間：2006年7月中旬～2007年7月中旬(ネパール暦2063年)

支援規模：6,923,802.60ルピー(約10,870,370円:使用レート 1ルピー=1.57円)

*為替レートが送金時期によって異なるため、日本の会計報告と必ずしも一致しません。

事業の背景と目的

ネパールでは、乳幼児の4割、女性の2割強が栄養不良という状況が感染症の繰り返しという悪循環に繋がり、乳幼児の21人に1人、そのうち5ヶ月未満児は16人に1人という高い死亡率の背景となっています。この栄養問題を解決するために、本プロジェクトは、以下の目的で実施されています。



1 全国レベル

効果的な栄養改善策を普及させるため、栄養教材開発や研修などによる他の栄養事業実施団体の活動支援や政策提言を行なうこと。

2 地域レベル

家族の中でも特に女性が、地域で入手可能な食材に関する栄養知識を身につけ、子どもとその母親の栄養改善を行うこと。

2007年度の総括

1 全国レベル

5種類の栄養教材を合計12,000部、栄養啓発ソングのカセットテープを4,100本作成し、栄養ニュースレターを2回発行しました。また、14団体からの参加者に対し、栄養研修やセミナーを実施しました。

2 地域レベル

2郡の事業地において、5歳未満の子ども延べ約33,500名の体重測定を実施しました。発見された約25%の中・重度の栄養不良児のうち、171名の子どもに対しては家庭訪問で個別指導を行い、医学的治療の必要な重度の子どもは近隣の栄養リハビリセンターに搬送しました。また、合計約3,400名の母親や妊産婦に、地域で入手できる栄養価の高い食材の調理法の実地指導をしました。合計約550名の女性地域保健ボランティアには、栄養研修や下痢の際の経口補水塩の作り方の指導を行い、地域の人材育成を強化しました。



イラクサ調理方法の実地指導(ダーディン郡)



保健ボランティアに対する経口補水塩の作り方指導(ダーディン郡)

ダーディン郡ジョギマラ村の母親 ニル・シン・タクリさん

夫は地方に出稼ぎに行っており、16ヵ月の子どもと生活しています。畑はあまり広くありませんが、自分たちだけならなんとか食べていけます。地域保健ボランティアから、季節の野菜や果物をバランスよく食べることや、これまでただの雑草と思っていたイラクサに栄養があることやその調理方法を教わり、今では子どもと一緒に食べるようになりました。



協力団体：ネパール保健省・NPCS (Nutrition Promotion and Consultancy Service*)

*ネパールのNGO。社会的弱者や貧困層の栄養改善をはかるため、地域住民への保健教育やNGOスタッフ、行政官への栄養研修を実施する。

協力期間：2006年10月1日～2009年9月30日

支援対象：ネパール保健省、中部・西部地方の5郡(ダーディン郡、カスキ郡、パルバット郡、ナワルパラシ郡、カピルバスツ郡。*)の全保健行政スタッフならびに女性地域保健ボランティア。

*マホタリ郡は安全上の観点から2007年7月をもって撤退

報告期間：2007年4月1日～2008年3月31日

支援規模：7,646,274円

事業の背景と目的

従来の地域レベルでの栄養改善事業により、地元で入手できる食材を使った食生活改善を母親に働きかけることで、子どもと母親の栄養改善を図るという「食生活改善アプローチ」の有効性が確認されました。本事業では政府保健行政システムにこのアプローチを組み込み、保健所職員や女性地域保健ボランティアの日常的な活動を通して郡全域での食生活改善を進める体制作りを目指します。ネパール政府に対し政府開発援助を実施するJICAとのパートナーシップ事業として実施することにより、事業対象郡のみならず将来的には全国規模での普及を視野に入れた行政への働きかけも行なっています。



2007年度の総括

1 郡レベルでの啓発活動

郡保健事務所関係者のみならず他ドナー機関やNGO、大学や病院関係者との連携により、郡全体で食生活改善アプローチを普及しうるシステムを構築するために、2007年度は3郡にて合計3回計103名を対象に、食生活改善アプローチのアドボカシー・ワークショップを実施しました。



トレーニング参加者

2 地域レベルの保健所スタッフ等への食生活改善アプローチ研修

2006年度開発した栄養指導教材「食生活改善アプローチ・パッケージ」を利用し、4郡の村落に居住する保健所スタッフや女性地域保健ボランティア等748名を対象に計26回(1回3日間)の研修を実施しました。



「栄養紙芝居」を使った研修

3 栄養不良児の救済

4郡の家庭での食事療法で改善の見込みのない重度の栄養不良児27名を、他NGOが運営する栄養リハビリテーションセンターに搬送し、医学的治療を行ないました。平均1ヵ月間のセンターでのリハビリ後自宅に戻り、女性地域保健ボランティアが家庭訪問によるフォローアップを行ない、事業スタッフが彼女たちへの技術面での支援をしました。



家庭菜園のブロッコリー畑にて(写真右から2番目はプロジェクト・マネージャーの吉田)

ダーディン郡女性地域保健ボランティアの声

研修で家庭菜園の作り方を学び、ブロッコリーの種をもらいました。私も村の人たちもブロッコリーを見るのは初めて。「これは何と言う名前の野菜?」と聞かれる度に免疫力を高める緑黄色野菜の必要性を伝えています。収穫した野菜はもちろんのこと、種も母親グループと共有し家庭菜園の普及に努めたいです。

協力団体：CCFインドネシア*Christian Children's Fundのインドネシア事務所
 協力期間：①2006年6月～2006年8月31日
 ②2007年2月～2007年6月30日
 支援対象：①インドネシア・ジャワ島、クラテン県、バントウル県、スコホルジョ県、マゲラン県の地震被災者(3,793名の子どもと、3,741家族)
 ②インドネシア・ジャワ島、バントウル県の14か所の公立小学校
 報告期間：2007年4月1日～6月30日
 支援規模(全期間)：936,985,954ルピア(約9,369,860円:使用レート 1ルピア=0.01円)
 *為替レートが送金時期によって異なるため、日本の会計報告と必ずしも一致しません。

事業の背景と目的

2006年5月27日に発生したジャワ島中部の大地震では、死者5,700名、負傷者38,000名を越える被害を出し、20万戸が全壊または半壊し、多くの学校で校舎など壊れました。チャイルド・ファンド・ジャパンではCCFインドネシアとの協力の下に、地震発生直後から3か月間に渡り被災した子どもたちへの支援を実施しました。被災から8か月たった2007年2月からは、CCFインドネシアとユニセフによって行われた、被災地での児童保護プログラムに協力し、バントウル県の14か所の小学校を対象に、保護者と共同で運営される学校委員会を活性化し、地方自治体の教育局との連携を強化して、地震で影響を受けた子どもたちがスムーズに学校生活に復帰することを支援しました。この事業は2007年6月まで継続して実施されました。



2007年度の総括

2006年の支援が被災直後の子どもたちへの直接支援であったのに対し、この事業ではトラウマを抱えた子どもへの対応や、通学に困難を感じる子どもたちに対処するための支援を行いました。

- 1 地域の教育行政担当者や小学校の先生が協力して、地震後に問題を抱える子どもたちの状況に対応できるよう、学校と行政機関との連携システムを構築しました。
- 2 PTAを含めた学校運営委員会を活性化し、学校内の問題に先生と親たちが協力して対応する体勢を整えました。
- 3 先生たちには、子どもたちが学校生活を楽しめるような授業や校内活動を行えるように能力開発研修を行いました。
- 4 被災後、様々な理由で不登校になる子どもを復学させるためのワークショップを、行政官、先生、PTAの代表、生徒の代表を含めて実施しました。

事業終了時点で行なわれた子どもたちへの聞き取り調査で出された意見

- 先生たちの笑顔が増えて、親しみやすくなった。
 - 授業の説明が分かりやすくなり、歌を歌うなど楽しい授業になった。
 - 体罰が少なくなった。
 - 地震で両親を失ったクラスメートのために、皆で献金をした。
- これらの意見の内容は、校長先生や保護者への聞き取り調査でも確認されました。



学校の校舎。地震で倒壊したため取り壊し処分中。右が建設中の新しい校舎。



音楽の先生と生徒の演奏するインドネシアの伝統楽器「ガムラン」に乗せて、伝統ダンスの練習をする子どもたち。こうした活動も、地震後の子どもの心理的な回復を目指して組まれたカリキュラムの一つ。



先生たちを対象に行われた能力開発研修の様子。

- 協力団体： CCFインドネシア*Christian Children's Fundのインドネシア事務所
CCFスリランカ*Christian Children's Fundのスリランカ事務所
- 協力期間： ①インドネシア:2006年5月～2007年10月31日
②スリランカ(当初4月終了予定を延長)2006年5月～2007年12月31日
- 支援対象： ①インドネシア:アチェ州(アチェ・ジャヤ県、アチェ・バラット県)の津波被災者
(2500名の子どもとその家族500世帯)
②スリランカ:アンパラ県の津波被災者1000名
- 報告期間： ①2007年4月1日～2007年10月31日:インドネシア
②2007年4月1日～2007年12月31日:スリランカ
- 支援規模(全期間)： ①2,352,249,778.15インドネシア・ルピア(約23,522,498円:使用レート 1ルピア=0.01円)
②17,726,044.97スリランカ・ルピー(約16,307,961円:使用レート 1ルピー=0.92円)
*為替レートが送金時期によって異なるため、日本の会計報告と必ずしも一致しません。

「インドネシア事業終了時監査で確認された残額約25,000ドルは、対象地域における子どもの活動継続を確保するために行う、地域住民への研修や啓発活動に活用いたします」

事業の背景と目的

2004年12月26日にスマトラ島沖で起きた大規模地震と大津波は、スリランカで3万5000人、インドネシアでは16万7000人の死傷者を出しました。

チャイルド・ファンド・ジャパンでは、2006年度から2007年度にかけて、2カ国の被災者へ復興支援を継続するための資金協力を行ないました。

現地では、家、水、道路などのインフラ支援は多くの援助団体が行っていましたが、被災住民が中心になって自分たちの地域の復興活動を計画実施するための支援が欠けていました。そこで、スリランカでは、マイクロファイナンスの仕組みを活用した収入向上支援を、またインドネシアでは、地域の住民委員会が中心になって子どもたちに様々な青少年活動やセミナーを提供することで、子どもたちの心の傷を癒していくという、ソフト面での支援を提供しました。

1 インドネシア

- ①15の地域で地域の委員会が中心となって、復興に向けた地域活動を行うことを支援しました。
- ②15の地域にアチェの伝統的な地域集会施設である「ジャンボ」を設置し、ここで、図書室活動、デイケア活動、イスラム社会の伝統的な教育活動、青少年によるスポーツや演劇などの文化活動を行ないました。これらの活動は、津波の脅威に晒された子どもたちの心の傷を癒すと共に、新たな生活への希望と自信をはぐくむものとなりました。
- ③8ヵ所で207名の就学前児童を対象に幼児教育活動を実施し、学用品を配布しました。
- ④収入源を失った貧困層の母親や青年たちに、木工、洋裁、菓子作り、オートバイ修理などの技術研修を行ない、この技術を活用して収入を得るのに必要な道具や機材が支給されました。

2 スリランカ

- ①スリランカでは、被災家庭や若者の経済的な自活の道を開くため、青少年100名に、溶接、電気工、エアコン修理、洋裁、室内装飾の技術研修を提供しました。
- ②44ヵ所で小規模ビジネス資金融資を行なう組織(Village Bank)を設立しました。事業が終了した2007年4月以後も、13,700ドル相当の残余金を活用して12月まで融資活動を継続しました。

その結果

- 1.2007年12月末までには1,122人(1,537件)が融資を受けました。
 - 2.融資の返済率も100%を維持しています。
- この支援による主な生業活動は、養鶏、米の販売、生活用品の小売、洋裁などです。

インドネシア

アチェ・ジャヤ県、チョートラップ村で子どもの活動を担当する地域委員会のメンバー、リドウワンさん(中学校の先生)

「地域の集会所で行っている様々な活動で、津波の被害を受けた子どもたちも明るさを取り戻しました。子どもたちにアチェの伝統文化を伝えることができるのも私たちには嬉しいことです。」



子どもの活動を担当する地域委員会のメンバー、リドウワンさん(後列左)と、地域の子どもたち。



スリランカ

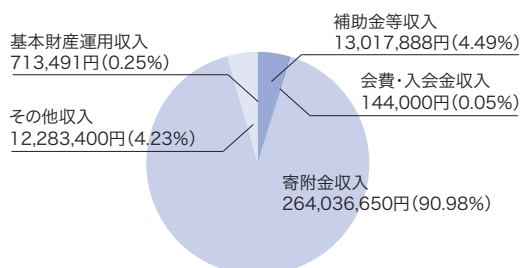
津波で家を失い、アルミ製の額縁製作の家業もできなくなっていた、コディー・スワリさん(写真右)

「お金を借りることは、大きなチャレンジでした。でもおかげで津波前よりも多くの収入を上げられるようになりました。お客さんもこれからもっと増えると思います。また資金を借りて家業を大きくせたいと考えています。」

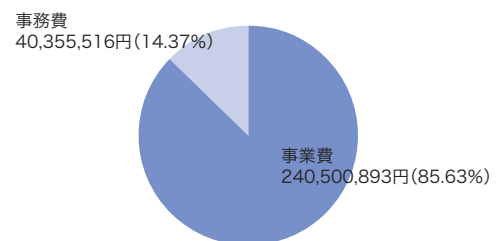
2007年4月1日から2008年3月31日まで

科 目	金 額	(単位:円)
I 収入の部		290,195,429
1.会費・入金収入	144,000	
入金収入	0	
会費収入	144,000	
2.補助金等収入	13,017,888	
地方公共団体補助金収入	13,017,888	
民間助成金収入	0	
3.基本財産運用収入	713,491	
研修基金利息収入	193,460	
子どもと地球を守る基金利息収入	520,031	
4.寄附金収入	264,036,650	
スポンサー寄附金収入	225,963,265	
プロジェクト・サポーター寄附金収入	36,042,368	
基金寄附金収入	2,031,017	
5.その他収入	12,283,400	
雑収入	1,074,836	
利息収入	358,564	
援助準備金特定預金取崩収入	10,000,000	
退職給与特定預金取崩収入	850,000	
II 支出の部		280,856,409
1.事業費	240,500,893	
(1) 地域開発支援事業	189,456,323	
スポンサーシップ支援金	116,718,750	
支援プロジェクト	32,640,340	
研修費	0	
開発支援事業管理費	21,229,444	
開発支援事業人件費	18,867,789	
(2) 緊急支援事業	0	
(3) 広報・啓発・提言事業	51,044,570	
広報費	125,138	
印刷製本費	4,443,100	
広報・啓発・提言事業管理費	5,284,855	
広報・啓発・提言事業人件費	23,666,883	
募金費	9,063,396	
募金管理費	1,045,224	
募金人件費	7,415,974	
2.事務費	40,355,516	
事務人件費	22,287,213	
事務管理費	18,068,303	
III 次期繰越収支差額		30,879,372
前期繰越収支差額	21,275,754	
前期繰越収支差額調整額	264,598	
当期収支差額	9,339,020	

収入の部
収入計 290,195,429円



支出の部
支出計 280,856,409円



貸借対照表

2008年3月31日現在

科 目	金 額	(単位:円)
I 資産の部		588,704,701
1. 流動資産	33,925,457	
現金預金	26,407,135	
仮払金	1,131,323	
前払費用	708,289	
未収金	2,477,888	
貯蔵品	3,179,000	
保証金(ネパール事務所)	21,822	
2. 固定資産	554,779,244	
土地	16,140,000	
建物	107,137,296	
研修基金	83,460,000	
子どもと地球を守る基金	254,850,211	
固定資産物品	6,001,737	
<特定預金>		
修繕積立金預金	5,500,000	
退職給与積立金預金	2,150,000	
援助準備金預金	49,540,000	
緊急援助特定預金	30,000,000	
II 負債の部		8,476,848
1. 流動負債	3,046,085	
預り金	702,812	
未払金	2,343,273	
2. 固定負債	5,430,763	
退職給与引当金	5,430,763	
III 正味財産の部		580,227,853
■うち基本金	461,587,507	
土地	16,140,000	
建物	107,137,296	
研修基金	83,460,000	
子どもと地球を守る基金	254,850,211	
■うち正味財産増減額	118,640,346	
負債及び正味財産合計		588,704,701

注記 1.減価償却累計額 16,118,054円(単年度分本部会計2,802,365円、単年度分ネパール事務所会計742,941円)

2.未経過リース料 2,888,970円(うち1年以内のものは1,152,900円)

3.子どもと地球を守る基金元本のうち11,758,273円は小松文子記念基金

子どもと地球を守る基金元本のうち15,470,100円は尾崎直道基金

子どもと地球を守る基金元本のうち10,000,000円は磯部陽子記念基金

子どもと地球を守る基金元本のうち80,000,000円は松本記念基金

子どもと地球を守る基金元本のうち12,421,838円は妹尾誠子記念基金

4.重要な会計方針

(1)資金の範囲には、流動資産、流動負債を含めます。

(2)退職給与引当金の計上基準

職員の退職金の支給に備えるため、期末要支給額の全額を計上しております。

(3)リース物件(所有権が借り手に移転しないリース取引)については貸借対照表に計上せず、発生した期の支出に計上しております。

(4)固定資産の減価償却は見積耐用年数に基づいて定額法で計算し、直接法で表示しております。

(5)ネパール会計においては期末日レートを_using_しています。

正味財産増減計算書

2007年4月1日から2008年3月31日まで

科目	金額	(単位:円)
I 増加の部		10,125,595
1.資産増加額	10,125,595	
当期収支差額	9,339,020	
固定資産物品購入	557,741	
固定資産物品購入(ネパール事務所)	228,834	
2.負債減少額	0	
II 減少の部		15,139,201
1.資産減少額	14,395,306	
建物減価償却額	2,038,553	
使途指定特定預金取崩	10,850,000	
固定資産物品減価償却額	763,812	
固定資産物品減価償却額(ネパール事務所)	742,941	
2.負債増加額	743,895	
退職給与引当金繰入	743,895	
III 期末正味財産合計額		580,227,853
前期繰越正味財産額	585,241,459	
当期正味財産増加額(減少額)	-5,013,606	

チャイルド・ファンド・ジャパンの 会計監査について

チャイルド・ファンド・ジャパンでは法人の監事1名が内部監査を行うとともに監査法人に依頼して、外部監査を受けています。

監査報告書

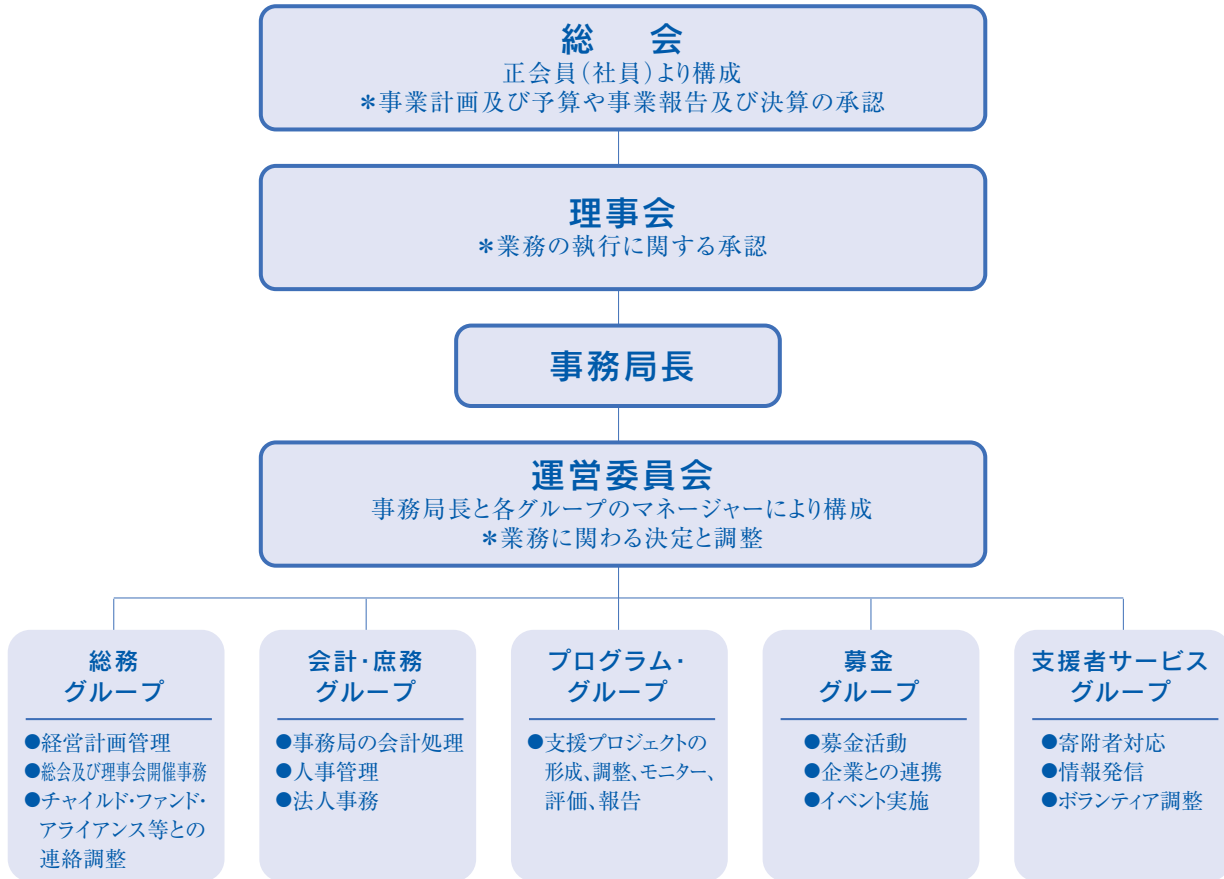
協和監査法人から右記の監査報告を受けました。

独立監査人の監査報告書	
特定非営利活動法人 チャイルド・ファンド・ジャパン 理事長 深町 正信 殿	平成20年6月9日 協和監査法人 代表社員 業務執行社員 公認会計士 高山昌茂
<p>当監査法人は、特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパンの平成19年4月1日から平成20年3月31日までの平成19年度の計算書類、すなわち、収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録について監査を行った。この計算書類の作成責任は理事者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から計算書類に対する意見を表明することにある。</p> <p>当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、理事者が採用した会計方針及びその適用方法並びに理事者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。</p> <p>当監査法人は、上記の計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる非営利法人会計の基準に準拠して、特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパンの平成19年度の収支の状況並びに同事業年度末日現在の財政状態をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。</p> <p>特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパンと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>	

チャイルド・ファンド・ジャパン組織図 / 役員名簿

特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン

2005年3月に社会福祉法人基督教児童福祉会(CCWA)国際精神里親運動部は、特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパンへ法人変更をいたしました。



【理事長】 深町 正信 (学校法人青山学院院長、青山学院大学国際政治経済学部教授)

【理事】 長山 信夫 (日本基督教団銀座教会主任牧師)
武藤 富子 (特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン支援者代表)
原島 博 (学校法人ルーテル学院ルーテル学院大学准教授)
小林 毅 (特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン事務局長)

【監事】 奥澤 行雄 (奥澤行雄税理士事務所所長)

2008年3月31日現在

チャイルド・ファンド・ジャパン33年の歩み

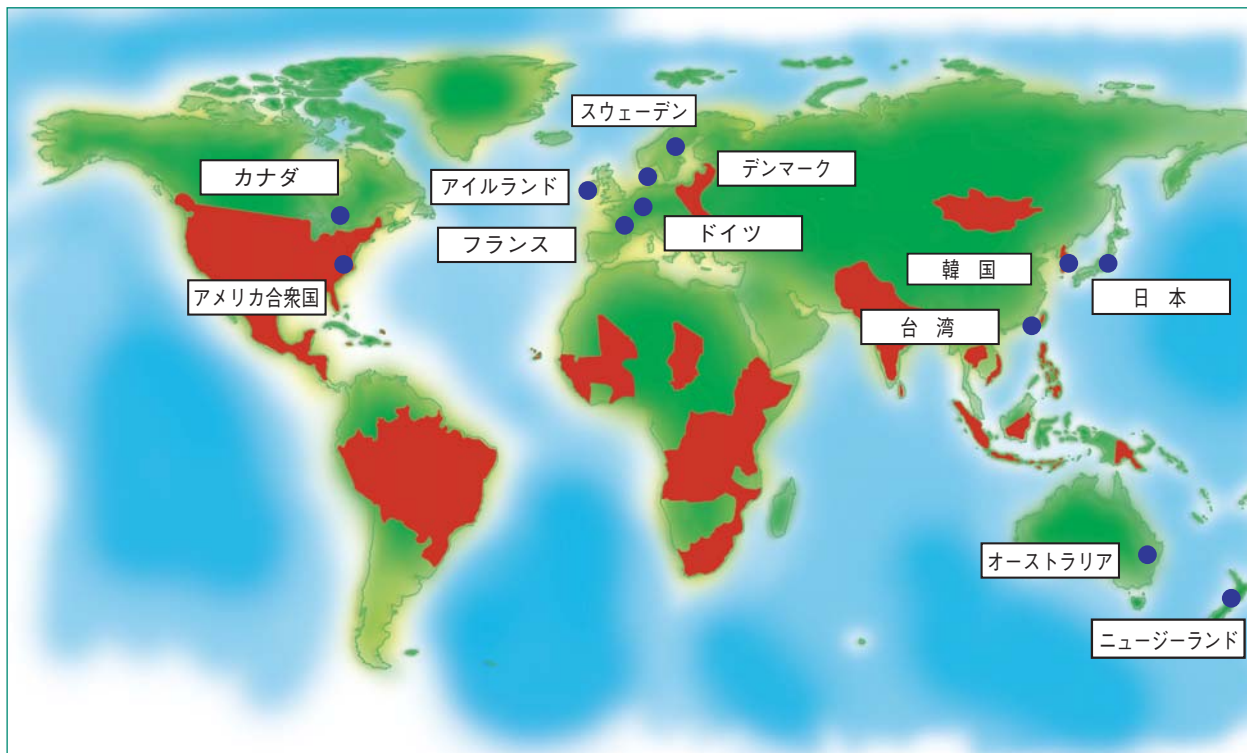
～支援される国から支援する国へと行われた「愛のバトンタッチ」～

- 1945年 第二次世界大戦終了
- 1948年 キリスト教児童基金(CCF)が日本の戦災孤児へ支援をはじめ
- 1952年 CCFの日本事務所として、社会福祉法人基督教児童福祉会(CCWA)設立
- 1974年 日本が経済成長を遂げてCCFの支援が終了
- 1975年 CCWAは国際精神里親運動部を創設しフィリピンでの支援を開始
- 1991年 東京弁護士会人権賞受賞
- 1995年 ネパールで保健事業の支援を開始
- 2001年 全国社会福祉協議会会長特別表彰受賞
- 2005年 CCWA国際精神里親運動部は法人変更により特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパンとして活動を開始
- 2006年 外務大臣表彰受賞

チャイルド・ファンド・アライアンスについて

チャイルド・ファンド・アライアンスは、人種、宗教、性別、国籍を問わず世界の子どもたちに、効果的な支援活動をするためのネットワークで、子どもたちに向けたスポンサーシップ活動を行う12団体から構成されています。チャイルド・ファンド・ジャパンは2005年4月に加盟しました。

<http://www.childfundalliance.org/>



- チャイルド・ファンド・アライアンスの加盟国
- チャイルド・ファンド・アライアンスの支援地域

.....

特定非営利活動法人 チャイルド・ファンド・ジャパン 2007年度年次報告書

理事長 深町 正信(青山学院名誉院長)
 事務局長 小林 毅
 〒167-0041
 東京都杉並区善福寺2-17-5
 TEL 03-3399-8123
 FAX 03-3399-0730
 E-mail childfund@childfund.or.jp
 URL <http://www.childfund.or.jp>
 郵便振替口座 00170-8-196462
 加入者名 特定非営利活動法人
 チャイルド・ファンド・ジャパン
 銀行振込口座 三井住友銀行西荻窪支店
 普通預金口座 0920355
 口座名 特定非営利活動法人
 チャイルド・ファンド・ジャパン

子どもの笑顔のために私たちにもできること チャイルドのスポンサーを募集中です

- スポンサー寄附金は月々4,000円です。
- 支援期間はご自由に決めていただけます。
- ご質問はお気軽に:03-3399-8123

